

令和 6 年度事業報告書 <デイサービスセンターあじさい園>

テ ー マ： I C T 導入による職員育成と働きやすい職場作りをめざした効果的な利用者支援

サブテーマ： 科学的介護（LIFE）活用により、自立支援・重度化防止を重視した質の高いサービスの推進

1. 令和 6 年度の介護報酬改定に合わせた適正なサービスの提供

- ①介護保険ソフトの入れ替えで通所介護計画書の書式が一新したため、現状に合うようひな形およびマニュアルを作成し、令和 7 年度の本稼働に備えた。また、職員は全員が e-learning に取り組むことができた。
- ②中重度者ケア体制加算の取得を目指し、体制を整え、3 月にケアマネージャーや家族に周知し、令和 7 年度から算定可能となった

2. ICT を活用した、安全・安心な運営を目指す

- ①災害及び感染症対応の BCP マニュアルを元に、令和 6 年度は訓練を実施したが、コロナ対応については今後も毎年改定が必要であった（感染症対応の訓練は全員参加）。
- ②送迎時間帯に被災した想定訓練を、初めて NTT のシステムを活用して実施したが、想定以上に連絡がスムーズでなく課題も多くあげられたが、職員の防災の意識が高まった。
- ③アプリを活用し、利用者やケアマネージャーへの一斉連絡を実施し、業務の効率化を図ることができた（固定電話の不通、雪による休園、コロナ関連等、計 23 回）。1 月にコロナのクラスターが発生し、利用者 21 名、職員 7 名が感染し稼働率の低下となったが、これまでの経験を活かし、営業は停止することなく継続できた。
- ④厚労省からの LIFE フィードバックが不十分なこともあり、通所介護計画に反映させるには至らなかったが、LIFE 関連の加算取得は実施出来た。

3. 地域支援事業の継続

- ①令和 6 年度は坂井市の介護予防教室 1 か所(年間 21 回)、あわら市の健康講座 1 か所(年間 3 回)を受託し、理学療法士、作業療法士及び看護師を派遣し実施し好評だった。
また、教室の参加者が利用するケースも出始めた(令和 5 年度 1 名、令和 6 年度 2 名)
- ②新幹線開業に合わせ、希望者に芦原温泉駅への外出を計画し、新幹線の見学と写真撮影を行い、利用者およびご家族の満足度の高い行事となった(全 6 回、延べ 27 名)。